

平成 25 年・第 102 回看護師国家試験に合格し、現在横浜労災病院で看護師として働くインドネシア人のデデ・リスムナンダルさん（以下「デデさん」）、マリアナさんへのインタビューを行いました。インタビュアーの市川一弘事務局次長からのコメント（※部分）も交えてお届けします。

○ 仕事として「看護師」を選んだ理由は？

・デデさん

高校卒業時に進路について迷っていたが、頭も力も体も心も使う仕事がしたかった。看護の仕事はそれらを全て使う仕事だと思っています。また、家族の中に医療関係従事者がいなかったこともあり、父にも相談してみて、看護の仕事に進むことを決めました。

・マリアナさん

母が亡くなる前の最後のメッセージとして、「ぜひ看護の仕事をやりたい」と言われたのがきっかけです。実際に看護の仕事をしてみると楽しくて、やりがいのある仕事だと感じました。



デデ・リスムナンダルさん



マリアナさん

○ いつ頃から「日本語」の勉強を始めたのか？

・デデさん

2009 年 7～8 月頃から、来日する前に語学研修で、まず 4 か月程トレーニングを行い、前半 2 か月ほどで「ひらがな・カタカナ」を書けるようになりました。それからメールで看護副部長とやりとりを始めました。

今でも思いますが日本語は難しいです。漢字については、看護部の皆さんが教えてくれたおかげで音読、意味がわかるようになりました。

・マリアナさん

看護の現場で、簡単な言葉や漢字の音読み・訓読みを教えてもらいました。

難しいのですが、皆さんが親切に教えてくれました。

○ 日本に来るきっかけは？

・デデさん

実家はインドネシアの west java という地域にある町ですが、バダンという街の病院で看

看護師として2年ほど勤務していました。その頃、父が病気になり、容体が悪くなったとの連絡を受けました。私は末っ子で兄弟はすでに所帯を持っていたこともあり、悩みましたが実家に戻ることにしました。

父の病状は進行し治療効果が上がらず、療養生活が長くなりました。

そんな時、友人から「デデさんは今、仕事していますか？」と尋ねられ、「父の看病があり、していない。」と答えました。すると友人は「そうですか。実は、インドネシアと日本の経済協力プログラム『EPA』と言うのがあって、看護師として2年の経験もあり応募資格もあるので、是非チャレンジしてみてもは？」と言われました。当初は考えもありませんでしたが「どうしようかな…。父の事があるけど、日本にも行きたいし…」と悩み、思い切って母に相談してみました。

母はその時は意見をハッキリ言いませんでしたが、私の想いを父に伝えてくれたようでした。すると父が私を呼び、「デデさん、日本に行ってください。」と言ってくれました。突然の父の発言にびっくりしました。その一週間後、父はこの世を去りました。

その父の言葉がきっかけとなり、その後10か月間程、様々な手続きを経て日本に来ることができました。

・マリアナさん

インドネシアで仕事をしている時に、日本の医療機材（シリンジポンプなど）や透析機器など日本製のものを使用していました。それらの発達したものを使えるようになりたい、しっかり勉強したいと思ったのがきっかけです。（表示等が日本語のため、漢字が読めませんでしたし、使い方などが分からなかったです。）

電子カルテで指示内容を確認。
医療用語の日本語と格闘中！



※ 今回、選抜されるにあたっては、インドネシア全土から約 5,000 人の応募があり、最終的に 175 人に絞られて来日しました。そして、看護師国家試験をパスしたのは全国で 30 人（インドネシア・フィリピン両国合わせて）、合格率 9.6% でした。

○ 日本で苦労した（大変だった）ことは？

・デデさん

やはり日本語です。初めて来日した際も日本語が読めませんでしたし、なにもできませんでした。人から話しかけられても分かりませんでした。特に、自分の意思（辛い・悲しいなど）を他人に伝えられないのがもどかしかったです。今でもそういう時があります。なので、今でも日本語力が足りないと実感しています。もっと勉強しないと、と思っています。

人間関係での苦労はありません。皆さん優しく大変よくしてくれますので。看護部は家族

のような感じです。

・マリアナさん

私は、日本語もそうでしたが、季節「冬の寒さ」が一番苦労しました。11月に来日してから2か月間研修があったのですが、研修所が箱根の山の上で、とても寒かったです。雪も初めて見ましたし、本当に寒かったです。美味しいかな？と思って食べてみたりもしました(笑)



「〇〇さん、リハビリの時間ですから、車椅子に移動しましょう！
はい、僕につかまってください」

○ 国家試験で大変だったことは？

・両名とも

もちろん日本語です。漢字や文法…とても大変でした。それと、インドネシアと日本の違い、例えば「社会保障制度」や「法律」が違うことです。また、医療機械も違うので、それを覚えることも大変でした。

※ 国によって法律体系や社会保障制度は当然異なるため、これを勉強し覚えるだけでもかなりの負担だったと思います。

○ 試験合格で、誰が喜んでくれましたか？

・マリアナさん

もちろん、看護部長・副部長さんをはじめとした、看護部の皆さんです。副部長さんは「やったー！！」とって大喜びでしたしね(笑)

一番喜んでくれたのは、父ですが…未だに信じられないようです(笑) この前、電話で合格を伝えましたが、その時の父の反応は

父「えっ？」

マ「合格したよ。パパ」

父「あっそうなの？じゃ、もう一回結果を確認してみて！」

マ「パパ…合格通知はまだ来ていないけど、インターネットで私の受験番号(合格者の番号)が出てるので、確認できるから」

父「あーもういいよ。ゆっくり結果を見て、確認してからでよいから」

ですって！ひどいと思いませんか？(笑) 父は今までも「もういいよ」と言うのが多かったで

すから。でも、祖母と姉はすごく喜んでくれました。

・デデさん

やはり父でしょうか。亡くなってはいますが、ずっと見守ってくれていたと思いますし。あとは母ですね。

もちろん病院の方々もです。看護部長さん、看護副部長さん、院長先生、私を応援してくれた友人です。友人は自己採点までしてくれましたから。

※ 院内のすべての方が動向を気にしていました。看護副部長は院内の職員とすれ違う度に「どうなりました？」と多くの方から聞かれていたようです。

○ これから、どのような看護師になりたいですか？（目標・抱負・目指すポジション等）

・デデさん

看護師としての目標はいっぱいあります。明るい看護師、良い看護師などありますが、一番大事なのは「患者さんにとって一番良いサービスが出来るか」だと思っています。

どんなポジションであっても「出来ることをしっかりとする。うまく出来ないのは意味がないこと」だと思っています。今後は、日本語をもっと勉強して患者さんへのサービスに努めたいと思っています。



黒岩神奈川県知事、インドネシア大使館領事も参加された激励会にて。苦労話をたくさん聞いていただきました。



「日本語は本当に難しいです！」でも、知事の前で堂々とスピーチしました。



「僕は日本の少子高齢社会のために役立ちたいです！」

・マリアナさん

明るい看護師になりたいです。そして患者さんが痛みで辛い時に、自分は冷静に対応しながらも、患者さんに「落ち着いて下さい。大丈夫ですよ。」など、安心感や慰めの言葉をかけ

てあげることができる、そんな看護師になりたいです。

※インタビューを終えて

看護師国家試験合格。この快挙には、お二人の様々な「想い」や「心の葛藤」そして「国を背負うプレッシャー」があったと思います。二人の努力は筆舌に尽くしがたいものがあったと思います。そして二人を支える家族や周囲の協力があったことも、合格に結びついたので言うまでもないことでしょう。

これから、看護師として様々な出来事があるとは思いますが、是非とも「日本一！」の看護師になっていただきたいと思います。